

# 神奈川私学保連 NEWS



## 今年度の活動について

神奈川県私学保護者会連合会 会長 鴨下 博厚

(洗足学園中学高等学校 洗足会顧問)

新型コロナウイルスによる感染症の拡大が、一向に収まる気配を見せない状況が続いています。学校の運営や保護者会の活動にも大きな影響をもたらしており、皆様には日頃から大変なご苦労が続けられていることと拝察いたします。

全世界に渡る感染症の拡大という未曾有の困難に襲われた中で、2020年度の活動が始まりました。様々な組織・団体が今までとは違った運営を余儀なくされており、各学校の保護者会でも、総会や色々な活動の見直しを続けていらつしやるとお聞きしています。

神奈川県私学保護者会連合会も、5月21日に予定しておりました定時総会を、書面での開催に切り替えました。5月15日に、加盟87校の代表者様宛に前年度の活動・収支報告案と、今年度の活動・予算計画案といった総会資料をお送りし、書面決議書に賛否を記入して返送していただく方式といたしました。結果、84校から決議書を返送していただきました。総会は無事に成立し、回答のあった全ての団体が賛成の意思表示をしてくださりましたので、議事は全て原案通り可決されました。学校への出校が制限される中で、ご回答くださいました各校の代表者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

6月23日(火)に神奈川県私学会館にて、今年度最初の理事会を開催し、総会の成立と議事の可決を確認して、本会の2020

年度の活動がスタートいたしました。今年度は、10年に渡り役員を務め、昨年度までの5年間は副会長を務めてくださった深沼昭彦様、原大蔵様の両名と、鎌倉学園から出向されていた赤松育子様が退任され、新たに4名の役員をお迎えすることになりました。また、20年以上も当会の活動にご尽力いただき、5年間顧問を務めてくださった市川元会長、玉園元副会長も退任され、役員の顔触れが大きく変わりました。会務をよくご承知の方々が一斉に退任され、少々心細い気はしておりますが、新たな役員の方々と力を合わせて、この困難な状況に立ち向かっていきたいと思っています。

さて、2020年度の本会の活動は、とても難しい判断を迫られると考えています。すでに、4月に予定していた神奈川県私立中学相談会、7月の神奈川県全私学展は中止となり、11月の神奈川県私学振興大会も中止が予定されています。感染拡大防止の観点から、多数の参加者が見込まれるイベント・行事の縮小・中止は止むを得ない判断であり、本会が毎年実施していた研修事業(バス利用による施設視察や講演会等)も、開催は難しい可能性が高いと予想されます。

一方で、私学に共通する願いである公私立間格差の是正や、私学助成金の増額・拡充といった要請は続けていかなければなりません。9月7日には、神奈川県私立中等高等学校協会の役員の先生方と一緒に県庁を

訪問して、県と県議会に対し、私学助成の一層の充実・拡充を請願してまいりました。他にも、主に県などが主催する団体に本会の役員を委員として派遣し、各団体との連携・協力を積極的に推進する活動や、日本私学保護者会連合会との連携・協力など、本会に求められる役割は広範に及び、コロナ禍であっても活動を停滞させる訳にはありません。

このような状況では、多くの方々にご参加いただく事業の開催は難しいと思われませんが、神奈川県私立学校に通う全ての生徒たちのために、この会は何が出来るのか、何をすべきなのかを、新しい役員の皆様とともに考えていきたいと思っています。

人類は有史以来、さまざまなウイルスや感染症との闘いを続けてまいりました。現在の感染症との闘いがどうなっていくのか、現時点では全く予測が付きませんが、人類はその都度、苦難を乗り越えてまいりましたし、今回もそうなると思っています。乗り越えた先の未来に一層の飛躍をするために、この状況をさまざまな事柄を見直すチャンスと捉え、前向きに活動していく所存ですので、加盟校の皆様方には引き続き、本会へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お届けいたしました「私学保連NEWS」は、今号で100号を迎えました。記念すべき号の発行にあたり、100号の歩みや市川元会長の寄稿など、記念号に相応しいコンテンツを掲載しております。最後までご一読くださいますよう、お願い申し上げます。

2020年

# 定時(書面)総会の開催

## ～神奈川私学の発展のために～

今年度の定時総会は新型コロナウイルス感染症の影響で、神奈川県私学保護者会連合会では初めて書面による開催となりました。加盟校、会員の皆様のご理解・ご協力を得て、すべての議事が承認されました。感謝申し上げます。6月23日(火)14時より神奈川県私学会館にて開催されました理事会にて、2019年度の役員と2020年度の役員ですべての議事が承認されたことを確認いたしました。

なお2019年度で退任される深沼、原前副会長に感謝状が贈呈されました。

今年度は昨年に引き続き鴨下博厚氏が会長に就任し新たに4名の理事を含め総勢14名の2020年度の役員での活動がスタートしました。新型コロナウイルス感染症のため、予定している事業の計画変更が予想されますが、神奈川県私学の発展のために努力してまいります。神奈川県私学保護者会連合会の加盟校、会員の皆様には、これからも本連合会の諸事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



理事長あいさつ

## ～寄り添い歩む私学の教育～

一般財団法人 神奈川県私立中学高等学校協会

理事長 工藤 誠一

(聖光学院中学校高等学校 理事長・校長)



新型コロナウイルス感染症対策のために緊急事態宣言が出されました。このため多くの学校が休校措置を3か月も取ることになりました。今年はこの学校も夏休みの開始を遅らせ、さらには第2学期を繰り上げで開始することになりました。授業のみならず行事、クラブ活動など学校の諸活動全般に対して多くの学校が急激な変化を迫られました。

私の学校では生徒全員がCanobookというタブレットを持ち、家庭でも学校でも常にWi-Fi環境の中で教育活動を行うことを前提としているので、新型コロナウイルス感染症対策で休校期間中も授業やホームルームを生徒と教員間でのコミュニケーションは滞りなく行うことができました。

休校期間中、神奈川の私学では、多くの学校がZOOM授業を導入しました。インターネットに接続していれば、いつでもどこでもパソコンやスマートフォンで授業動画を受講し、課題にも利用できました。コロナ対策の一環として有効に活用することができたようです。

確かにオンライン学習は効率だけを考えれば優れた側面もあります。必要に応じて繰り返し見ることができ、一斉授業とは違って生徒一人ひとりの進捗や理解度に合わせて最適な学習が可能です。

しかし、私学が担うべき教育の本旨はそこにはありません。授業はクラス全体を見渡して、生徒一人ひとりがどれだけ授業に集中しているのか、どんなことに興味を持っているのかを感じ取りながら作り上げていくものです。教室に在籍する生徒数だけの個性があり、

意見があります。思いもよらない反応があり、議論が始まったりして、予定通りに進まないこともあります。そうした一見すると無駄で非効率なところから学んでいくことも多々あるのです。

ビジネスの場であれば、効率化は非常にメリットのあることです。Withコロナ時代にリモートワークやオンライン会議が増えていることは止められないでしょう。しかし、中等教育ではそれではだめです。この時期は「第二の誕生」といわれる人間形成にとって重要な時期であり、各校が建学の精神にもとづいた人間教育を行うことこそ、私学中等教育の存在意義があるからです。また、Withコロナの時代は不安定な要素が多く、誰もが不安を抱えているでしょう。これからの中高生は、そうした時代に思春期を迎え、繊細な時期を過ごします。これまで以上に学校がしっかりと指針を示し、生徒が安心して学べる環境をしっかりと整えることが重要であると思います。

神奈川県私立中学高等学校協会では2020年4月から学校に通いづらくなった生徒に寄り添い歩むために「神奈川県私学修学支援センター」を設立しました。協会が所有する私学会館の一部を教室として利用し、生徒たちは学校に籍を置いたまま会館に通い、授業やアクティビティを行います。コロナ禍の影響で実際のスタートは6月からとなりましたが神奈川県私学としてのセーフティネットの一つがスタートしたと思います。

神奈川の私学には長い歴史を持つ伝統校が多くあります。創立以来、時代の変化を乗り越えてきたのが私学なのです。新型コロナウイルスのような未曾有の事態にあっても各校の教育方針、カリキュラムが建学の精神を礎としてアップデートしていくことが期待されています。時代は私学の力を求めています。私は中高協会理事長として各校がそれぞれの個性的な教育を打ち出していくと同時に、これからは私学間でより強いネットワークを持ち、協働して子どもたちの教育を創造していくことが求められていると考えています。





## 新役員紹介

新理事 鶴岡 和雄

(横浜清風高等学校 PTA 常任顧問)



このたびは神奈川県私立保護者会連合会の理事に就任いたしました鶴岡和雄と申します。

新型コロナウイルスの影響で色々な行事が自粛、延期、あるいは中止等で学校はもとより、生徒諸君も戸惑っていると思います。この記事がでるころには収まっていくればと願っています。

さて私事ですが、実は横浜清風高等学校のPTA役員になるまで、このような会、神奈川県私立保護者会連合会があることを知りませんでした。

神奈川県私立保護者会連合会の事業である、私立中高の振興大会、全国大会また研修会等に保護者代表として出席し、考えさせられることは、私学の保護者にとってとても大事なそして大切な会であるということをつくづく感じさせられ、知ったしだいです。

私同様、私立学校の保護者会連合会がどういうものか、そしてどのような活動をしているのか、ということとを知らない保護者の方達がいらっしやることと思います。多くの保護者の皆さまに理解していただく為に、事業に積極的に参加していただけるよう、微力ながらお手伝いできればと思っております。

また生徒達には、より良い環境のもとで学べる教育の整備などにもお手伝いできればと思っております。昨年は研修会等で皆さんの写真を撮らせていただきました。今年も機会があれば撮影させていただければと思っています。そんな折には是非笑顔で宜しくお願い致します。

新理事 西 淳子

(柏木学園高等学校 後援会理事)



大和市にある柏木学園高等学校は、近隣に大きな商業施設があるにぎわい豊かな街にあります。大和駅から学校までは少し距離がありますが地域の方の温かい目に見守られながら登校しています。建学の精神、

社会に貢献する人間の育成を教育目標とし、心豊かにたくましく生き、時代の要請に対応し、社会に貢献し得る人間の育成に努める。このため人間教育を基礎に様々なカリキュラムが設定され、学力と個性を伸ばして、生徒一人ひとりの進路に展望のもてる教育が行われています。教職員の熱い指導のもと生徒は目標に向かって充実した日々を過ごすことができます。また保護者は後援会として先生のお手伝いをしながら生徒と共に学校生活を楽しく過ごしています。学園祭で後援会が提供する豚汁とおにぎりは毎年生徒の出し物と並び好評となっております。進路に関しても「可能性の翼を広げよう」というスローガンのもと生徒の自主性を重んじ、その過程でなが必要かを考えさせるよう3年間しっかり指導がされるため生徒が自発的に進路を考えることができる環境が整っています。

コロナウィルス感染症に関して、他校と同様に学校生活に大きな影響がありました。臨時休校など今まで経験したことがない不安な状況に戸惑いながらも自粛期間中はOnsによる自宅学習のサポートやメール、ラインによるお知らせなど様々な形で情報共有が行われ学校とのつながりを断たれることなく過ごすことができました。勉強が苦手な息子から「早く登校して勉強がしたい」という聞き慣れない言葉が聞かれた自粛期間でしたが、様々な行事がなくなり悲しい想いをした子ども達が多かったことは

決して忘れてはならない出来事と感じました。

この度、ご縁があつて理事という大役を仰せつかりました。今後も様々な課題があると聞き身の引き締まる思いです。皆様のご指導のもと私学の更なる発展のため精一杯務めさせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新理事 米本 麻紀

(サレジオ学院中学校・高等学校 保護者会副会長)



私学の更なる発展の為に

緑の多い閑静な住宅街に佇むサレジオ学院中学高等学校は、四季折々の花や木に囲まれ、光がたくさん差し込む、とても明るく穏やかな場所にあります。現在はチャペルを建築中で、神奈川県でも数少ない、校長先生が神父様である男子校です。創始者ヨハネ・ボスコの「信」「愛」「理」を根本とする理念に基づき、国際的視野に立つ社会への奉仕を実践できる人間を目指した教育を行なっています。また、「25歳の男作り」と題して、高校卒業時に完成形を求めるのではなく、社会である程度のことをしていける位置につくであろう時点を目標に、変革できる人間の形成を目指しており、25歳には、再びサレジオ学院に集い、社会人として目的を持つ同士の更なる交流につながっています。

保護者は、文化祭や体育祭などで子どもたちの成長を目にすることが出来ます。特に文化祭では、母親はバザーや食品の販売で、また父親も「親父の焼き鳥」と称して焼き鳥を焼いて販売する出番があります。勉強や部活動で見る姿と違う生き生きとした生徒たちを間近で見られることは親として幸せを感じるときでもあり、学校と家庭が子どもを中心とした教育共同体である事を実感します。保護者の学校への参加は、保護者会だけでなく手作りキルトの会

やコース、父親と母親の聖書研究会などもあり理解を深めることができます。

いま、コロナの影響で今まで普通にできていたことができなくなっています。私たちにとって大切なことは何なのか、考えさせられる今年度のスタートになりました。友人や先生と関わることも、オンライン授業など自分で努力が必要なこと。こんな時こそ学校と保護者が共同体となり、子どもにとってのベストを探しながら成長をアシストし、良い環境を与える必要を感じます。

この度、私学保護者連合会の理事という大役を仰せつかりました。学校での保護者会の経験を生かして、皆さま方のご指導のもと、私学の更なる発展のために微力ながらお手伝いできればと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新理事 青木 八重子

(横浜学園高等学校 後援会副会長)



### 理事就任にあたって

横浜学園高等学校は1899(明治32)年、外国の船を迎えた横浜の地に新しい文化のさきがけとして創立され、2020年で創立120周年を迎えました。

明治の初め、我が国の女学校は大半が私立で、そのほとんどがミッション系で占められ、女子には学問は不要とされた長い伝統がありました。社会事業に尽くされた田沼太右衛門翁は、「未来を担う女子の教育は重要」と、自ら私財を投じ、横浜女学校を設立しました。

平成13年(2001年)より時代の要請に応え男女共学を実施いたしました。

学園には、建学の精神に基づき「考える人を育てる」「心豊かな人を育てる」「たくましい人を育てる」「思いやりのある人を育てる」「公につくす人を育てる」という5つの教育目標があります。今後のグローバル社会に必要な「思考力」「包容力」「持久力」「共感力」「実践力」の育成につなげていきます。学園長は、「教育とは、善くなることとする子どもを手助けし、その力を活性化させる事であり、結果以上に過程(プロセス)が重要と考え、そのためには、教員が適切な手助けをして、生徒が真剣に取り組んでいける教育方針が必要となり、結果として、生徒一人ひとりが一生懸命に取り組んだ経験が大人になった時に生きてくる、一生の宝となるでしょう」と話されています。社会の中でよりよく生きていく人物教育のための安心安全な学校づくりに取り組んでいます。

保護者としては、在校生の親の会である「白梅会」、卒業生の親の会である「後援会」と共に、委員会・総会を開催。先生方と意思を共有し、子ども達のかげがえのない今を後押ししています。年間行事では、学園祭・バス研修旅行・保護連開催行事等への参加・懇親会・お別れ会等、交流が多いことは私学の魅力であると感じています。

毎年、学園祭では、白梅会はカレー販売・バザー、後援会は果物販売を行います。

生徒たちも、伝統のカレーと果物を楽しみにしています。生徒・保護者・教員が一体になって取り組み、達成感あふれるイベントとなります。

今年は、コロナ渦の為、学校も教員も保護者も子ども達も経験のない事態となっています。

3月からの休業、外出自粛、6月から学校再開であっても自由ではありません。各行事の縮小・中止が相次ぎ、子ども達のメンタルも心配です。

このような時期に、私学保護者連合会の理事を仰せつかりました。

本当に微力ではありますが、皆様のご指導のもと、私学の更なる発展と子ども達の為にお手伝いさせて頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



## ●2020年度 神奈川県私学保護者会連合会 役員

| 役職名   | 氏 名     | 所属団体名・役職名                       |
|-------|---------|---------------------------------|
| 会 長   | 鴨 下 博 厚 | 洗足学園中学校・高等学校 洗足会顧問              |
| 副 会 長 | 深 谷 祥 子 | 藤嶺学園藤沢中学校・高等学校 PTA 担当役員         |
|       | 金 子 晃 久 | 英理女子学院高等学校 PTA 顧問               |
| 理 事   | 庄 司 由 紀 | 横浜富士見丘学園中等教育学校・中学校・高等学校 PTA 副会長 |
|       | 濱 野 弘 規 | 横浜雙葉学園 後援会執行委員                  |
|       | 加賀美 博 之 | 聖光学院中学校・高等学校 後援会理事              |
|       | 鶴 岡 和 雄 | 横浜清風高等学校 PTA 常任顧問               |
|       | 西 淳 子   | 柏木学園高等学校 後援会理事                  |
|       | 米 本 麻 紀 | サレジオ学院中学校・高等学校 保護者会副会長          |
|       | 青 木 八重子 | 横浜学園高等学校 後援会副会長                 |
| 会計理事  | 吉 成 みち子 | 横須賀学院中学校・高等学校 教育賛助会会長           |
|       | 浅 見 昌 宏 | 立花学園高等学校 PTA 参与                 |
| 監 事   | 木 村 美 佐 | 鎌倉女学院中学校・高等学校 家庭会顧問             |
|       | 稲 葉 夏 美 | 武相中学校・高等学校 PTA 相談役              |





## 私立学校への

### 「経常費助成補助」

#### 増額を要望

9月7日 神奈川県新庁舎

### 嶋村ただし県議会議長へ請願・署名を提出

私立中学高等学校協会役員4名と私学保護者会連合会の役員2名が県庁を訪問し、私立学校の保護者負担の軽減と各校の教育条件の維持向上に向けて、私学への「経常費助成補助」の増額等の要望を県議会議長に提出しました。

6月19日に全加盟校にお願いした「経常費助成補助」に関する署名は、全校の学校・法人・保護者代表から249名が集まり、県新庁舎の議長室において、中高協会の工藤誠一理事長と保護者会連合会の嶋下博厚会長が代表して、嶋村ただし県議会議長に提出しました。

#### 請願の理由

神奈川県は私学発祥の地であり、県下の私立中学校・中等教育学校・高等学校は、独自の伝統と校風を守り、建学の精神を現代に生かし、有為な人材の育成に努力し、本県教育の充実発展に貢献してまいりました。

幸い、本県においては、私学に対し、知事をはじめとする県当局並びに県議会議員の皆様の深いご理解とご支援のもとに、私学助成の充実が図られてきました。

さて、今日、私学経営はますます厳しい時代に入っております。とりわけ経常費補助金については、全国的に見ると未だ生徒一人当たりの単価は、高等学校（全日制）、中学校、中等教育学校ともに国の財政措置額を大幅に割り込み、全都道府県の中で最低の水準にあります。しかしながら、神奈川私学は県下後期中等教育の約三分の一という役割を担っていることから、県下教育を担当している責務の重大さを痛感し、県民に信頼される個性豊かで、特色・魅力ある学校づくりのため、一層努力する所存であります。つきましては、令和三年度私学助成に関し、左記の点に格段のご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

#### 請願の内容

一、令和三年度の経常費補助については、一層の増額をお願いしたい。



### 「保護者の願い」

#### 福祉子どもみらい局私学振興課長に提出

9月7日 神奈川県新庁舎

県議会議長へ請願署名の提出後、同じく新庁舎の会議室で、嶋下会長が県振興大会の時の大会決議として用意していた「保護者の願い」を、私学振興課の中山毅課長に提出し、黒石知事にお渡しいただけるようをお願いしました。

#### 「保護者の願い」

神奈川県知事黒石祐治様をはじめ、国会並びに神奈川県議会の議員の皆様には、日頃から、私どもの子どもたちが学ぶ私立学校教育の振興発展にお力添えをいただき、心から感謝申し上げます。

さて、現在、私立学校とそこに学ぶ子どもたちを取り巻く環境は、さまざまな課題を抱えております。特に今年度は新型コロナウイルス感染症によって、子どもたちの学習・教育活動の変化、各家庭の経済状況の変化など今まで経験したことがない課題への対応に、学校も家庭もたいへん苦慮しております。そうした中で私どもが私立学校の保護者として切に望みますことは、何よりも「子どもたちが安心して学ぶこと」ができる、充実した教育環境の整備でございます。

もとより、わが国の将来や神奈川県の郷土発展のために、子どもたち一人ひとりが立派に成長し、社会の役割を担えるよう育てることは、私ども保護者の責任でございます。一方、私立学校の保護者として何よりも第一に望みますことは、子どもたちのそれぞれが自分の能力や希望に応じて、自ら選択した学校で充実した教育が受けられることです。

私ども保護者は、様々な学校の選択肢の中から、教育方針に賛同し子どもに良かれと考え、私学に学ばせております。しかし、経済的にゆとりのある家庭ばかりではございません。是非とも家庭の経済状況により自由な学校選択が妨げられることのないよう、私立学校保護者への更なる学費負担の軽減、ならびに就学支援金の拡充をお願いしたいと思います。

そして同時に、これまで以上に良い教育が受けられるために、私学への経常費助成の増額を望んでおります。私立学校に学ぶ子どもたちの教育環境を整備するためには、何よりも経常費補助が増額されることが必要不可欠なことと考えております。

私立学校関係者並びに私ども保護者は、新型コロナウイルス感染症の対応によって神奈川県の財政が苦しいことは十分に理解しておりますが、私立学校に学ぶ子どもたちの教育環境の一層の改善・充実と私立学校保護者の学費負担軽減のために、次の三点について速やかな実現を望みます。

- 一つ 私立中学校・高等学校・中等教育学校の経常費補助に対する補助率二分の一の継続と、補助単価の充実・増額
- 一つ 保護者負担教育費の公立と私立学校間の格差是正と負担の軽減
- 一つ 私立高等学校等の全施設の耐震化に向けた国公立学校と同等の財政支援の拡充と実施

2020年9月7日

神奈川県私学保護者会連合会

会長 嶋下 博厚





## 私学保連 NEWS 100 号の歩み

私学保連 NEWS は昭和 44 年 5 月 1 日に創刊号が発行され、今回の発行で 100 号を迎えました。発行された私学保連 NEWS には、その時々々の社会状況が反映された内容やいろいろな保護連の事業が記録されています。つまり保護連の約 50 年の歩みが各号に綴られています。

このページではすべての号をご紹介しますことはできませんが、その歴史を Q&A の形でご紹介します。

私学保連 NEWS の創刊号は  
どのような内容でしたか？

創刊号は「父兄連合会ニュース」というタイトルで、連合会も「神奈川私学父兄連合会」という名称でした。紙面も B4 判 4 ページ校正で印刷され、一面には当時の神奈川県私学父兄連合会会長（神奈川学園 PTA 会長）の児玉威様のご挨拶や神奈川県知事の津田文吾様のご挨拶が掲載されています。二面には神奈川県私立中学高等学校協理会理事長の松本武雄様、神奈川県私立小学校協理会理事長の岸田与一様から創刊にあたってお祝いの言葉をいただいています。その他の記事では、この年に今の私学会館が私学教職員の福祉センターとして建設が始まったことが紹介されていました。

私学保連 NEWS のタイトルは  
いつ変わったのですか？

創刊から 7 年後の 10 月 1 日発行の 12 号で「父母連合会ニュース」と改名され、団体名も「神奈川私学父母連合会」と改められました。平成 4 年の 44 号から B5 版で複数ページの冊子形式に変わりました。平成 14 年の 63 号から A4 判に変わり、タイトルも「父母連合会 News」と改められました。平成 21 年の 78 号から今のようなカラー印刷に変わり、平成 22 年の 80 号からタイトルも今の「神奈川私学保連 NEWS」となりました。連合会の名称の変化には社会の考え方が影響されているように思えます。

## 保護連ニュース100号を迎えて

ほろ苦き人生の中で

市川 昌 廣  
(横浜学園高等学校 後援会会長)



それは、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災よりちょうどひと月前、2 月 11 日の夕方のことでした。  
私は地元商店街の役員たちと、同じ商店街にある飲食店に行った時のことです。

私は今までに経験したことがない激しい胸焼けに襲われていました。メニューにはありませんでしたが、胸焼けに効果があるという店主のすすめで「大根おろし」を注文し、それを食べました。しかし胸焼けは治まりません。そこで今度は大盛にしてみました。激しい胸焼けはついに治まらなかったのです。

翌朝、近くの医院で診察すると、「逆流性胃炎」ということでした。夕方まで処方薬を飲み続けましたが激しい胸焼けは治まらず、再び医院に行くと、紹介状を書くから指定する病院に行くよう勧められ、私は車で 10 分ほどの横浜聖隷病院に自らの運転で向かいました。妻も同行してくれました。

時間外だったので救急受付から入り診察室のベッドに横たわっていますと、3、4 人の医師が入ってきてすぐにカテーテル手術をやる、というのです。つまり私の激しい胸焼けは「急性心筋梗塞」だったのです。

無事カテーテル手術を終え、集中治療室を出て数日経った日、私は看護師にシャワーをあげたいと申し出て、シャワーをあげたあと、久しぶりにさわやかな気分になり病室のベッドでうつらうつらしていました。すると私の肩をトントンと叩く人が目の前に立っていたのです。県私立中高協会事務局次長（当時）の鈴木先生でした。

点滴は左腕につながれていましたが、私は面会室までの歩行は許されていました。面会室には事務局局長の長谷先生のほか、県私学保連の 3 人の役員も待っていてくださったのです。たしかその年は、私が県私学保連の会長を仰せつかり 3 年目だったと思います。

本年度、私と共に顧問を退任された平塚学園の玉園さん、そして昨年度亡くなられた佐藤元会長もおられました。わざわざみなさんでお見舞いに来てくださったことに、今でも感



## 過去にはどのような記事がありましたか？

創刊号にも記載されていましたが、保護連は協会に協力しながら私学助成、保護者の負担軽減等私学振興に積極的に取り組んでいました。昭和51年1月に県民ホールで3,000名以上の規模の決起大会が開催されたことが一面に大きく紹介されていました。

また昭和53年7月に「第1回学校父母会連絡」が開催され、3つの分科会で「広報活動について」「クラブ活動」「夏休み、親と子の暮らし方について」をテーマに私学会館を会場として熱心に討議されたことが紹介されていました。加盟校で保護者会の取組が共有されていました。

昭和55年には連合会の役員で県外の私学の視察を行った記事や加盟校のPTA活動の紹介記事がありました。現在ではインターネットでいろいろな学校の情報を知ることができますが、当時は学校紹介などの情報提供が私学保護NEWSの大切な役割であったと言えます。学校視察は昭和60年から県内の学校視察に変わり、現在は研修事業として県内外の施設見学を加盟校全体に呼びかけて実施されています。

## 私学保護NEWSは現在何部発行されているのですか？

加盟校87校（学校によっては保護者の会が校種別）の全児童・生徒と教職員に約73,000部の他に、加盟していない学校に各20部、関係団体に500部ほどお送りしています。年度の児童・生徒数によって発行部数は多少異なりますが、保護連の活動を各家庭に漏れなくお届けできるようにしています。4月発行の私学保護NEWSは新入生にもお配りしています。なお、発行にあたって神奈川県から補助金をいただいています。

## 特集記事はありましたか？

82号から85号にかけて「子どもの安全のためにフィルタリングをかけましょう!!」「守ろうね！自転車に乗るときルール」「脱法ハーブ」にタマされないで！」「食育を考える」「がんに対する正しい知識を身につけましょう」という特集を組んで紹介されていました。当時は子どもの携帯電話でのトラブルや自転車による事故（特に事故の加害者になるケース）や健康等に関心が高まっていた時期でもありました。私学保護NEWSではそれらの課題を取り上げ、会員への情報提供に務めていました。

謝を忘れません。

私が県私学保護にお世話になって本年で20年ほどになると思いますが、その間、特にご指導いただいた県私立中高協会の歴代理事長先生は、田沼（先代）理事長、堀江理事長、高木理事長、そして現在の工藤理事長の先生方です。

また事務局は、坂口局長、溝井局長、長谷局長、鈴木局長、大矢局長、そして現在の木田局長と池田次長の先生方です。皆さまには本当に世話になり、感謝の気持ちと共に懐かしさが込みあげてきます。

私は40代半ばに、今と同じ設計事務所を営みながら、若い頃にやり残した売れない小説を書いていました。毎日が苦闘の連続でしたが、3年ほどで嫌気がさしたあと、東京と横浜市内、そして保土ヶ谷区を中心に同人を集め、同人誌『小説図鑑』を20年あまり発行しました。

『小説図鑑』は、文藝春秋社の『文藝』平成20年12月号で紹介され、また、新潮社の『文藝年鑑』では全国同人雑誌一覧で現在も紹介されています。尚、『小説図鑑』は現在休刊中です。

僭越ながら、『小説図鑑』のレベルは高いと評価されているのですが、同人から文学賞の候補はいまだ出ておりません。

ところで、私のたった一つの自慢話は、20代初めの、1966年9月、知り合いの新劇の若手連中と行った新宿二丁目の深夜バー「どん底」での出来事です。

来日していたフランスの哲学者・サルトルとボーヴォワールご夫妻が、お忍びで来店し、店が混んでいたため私と相席になり、ワインで乾杯したのです。

それは奇蹟ともいえる瞬間でした。書物や報道でしか見聞したことがない歴史上の哲学者が、今ここに“実存”しているのですから……。

私は新劇の若手に助けられながら、ちんぷんかんぷんの仏語で「無神論的実存主義について」などと、生意気な質問をしていましたが、無礼で無知な日本人の若者に、傍らの夫人は終始ニコニコしていました。何をお話したのか憶えています。私の原点ともなる深夜2時間あまりの夢のような遭遇だったのです。



## \*日私学保連定時総会（書面総会）

今年度の日私学保連の総会は北海道・東北地区が担当で、7月9日、10日に福島県で開催が予定されていましたが、全国的な新型コロナウイルス感染症のまん延の影響で開催が中止となり、初めて書面会議となりました。総会に参加を予定していた鴨下会長、深谷副会長、金子副会長が書面会議の回答を行いました。なお、今回中止となった福島県での総会は、次年度に福島県で開催されることになりました。

日私学保連の総会では毎年、各県の保護者会で功績のあった方に功労者表彰の贈呈が行われていますが、今年度は神奈川県から前副会長の深沼昭彦様と原大蔵様が10年間の保護連の活動が評価され表彰されました。

また、日私学保連の令和2・3年度の役員として、宮城県の門傳英慈様が引き続き会長に選出されたほか、神奈川県の鴨下会長が監事に推薦され承認されました。

日私学保連の事業計画では、11月27日（金）に「令和2年度青少年育成研修会」が神奈川県での開催が予定されています。研修会では神奈川県私立中等高等学校協合理事長の工藤誠一先生のご講演のほか、崎陽軒取締役社長の野並直文様のご講演が予定されています。開催県である神奈川では、充実した研修会になるように準備をすすめています。総会と同様に新型コロナウイルス感染症のまん延で開催が心配されます。

## \*令和2年度関東地区私学保連代表者会及び研修会

関東私学保連では6月に理事会、8月に総会・研修会を関東6県で持ち回りで開催しています。今年度は茨城県が担当でしたが、これも書面会議になり昨年度の決算および今年度の予算・役員等が承認されました。

○令和2年度関東地区私学保連役員（敬称略）

会長 杉戸 健二

（群馬県私立小・中・高等学校保護者会連合会 会長）

副会長 三好 仁

（栃木県私立小学校中学校高等学校保護者会連絡協議会 会長）

## 理事 各県の保護連の会長

※杉戸会長、三好会長は日私学保連の理事も兼任

○次期開催県（令和3年度以降）

関東私学保連の理事会・総会の開催県については次のように確認されました。

令和3年度 千葉県 令和4年度 神奈川県  
令和5年度 埼玉県 令和6年度 群馬県

○神奈川県保護連からの総会資料

神奈川県からは毎年「私学保連NEWS」をもとに活動報告をしていましたので、今回は89号と99号を総会資料と送付しました。

## \*「神奈川県公立高等学校協議会」令和3年度公立高校入学定員計画

「神奈川県公立高等学校協議会（略称…公私協）」が8月に開催され、保護者連合会から鴨下会長がオブザーバーとして出席しています。今年度は8月4日（火）と8月27日（木）に行われました。

公私協は次年度の「高等学校生徒入学定員計画」を決める会議で、簡単に言うと県内の公立中学校卒業生（3年生）に対して、公立高等学校と私立高等学校のそれぞれの募集定員目標を協議する場です。最終的には黒岩知事、工藤理事長が出席される設置者会議で合意されます。

年々卒業生の数が減少し、昭和63年のピーク時の12万人に対し、令和3年3月の卒業生は約半分の6万5千人となっています。さらに令和17年3月までに1万人に減少すると言われ、定員目標は私学経営を大きく左右する課題であると言えます。ここ数年、学費補助が増額されたこともあり、私学への進学希望が増えていることから、私学の募集定員については今後も慎重に検討されることを願っています。

また令和3年度の「高等学校生徒入学定員計画」には、新型コロナウイルス感染症で公立、私立ともに受験生が安心して自分の進路選択ができるように、協力して対応することになりました。

## 2020年度 主な行事への出席

◆4月29日（水・祝）

2020全私立中学相談会

※於パシフィコ横浜（開催中止）

◆5月12日（火）

2019年度会計監査

※於私学会館（吉成会計理事、金子・木村監事）

◆6月23日（火）

2020年度書面総会 ※於私学会館

◆7月9日（木）

日私学保連総会・研修会 ※於福島（開催中止）

◆7月19日（日）

2020全私学展

※於パシフィコ横浜（開催中止）

◆7月21日（火）

事務長会夏季研修会

※於ホテル河鹿荘（開催中止）

◆8月4日（火）

神奈川県公立高等学校協議会

※県立国際言語文化アカデミア（鴨下会長）

◆8月20日（木）

理事長・校長研修会

※箱根湯本富士屋ホテル（開催中止）

◆8月27日（木）

神奈川県公立高等学校協議会

※波止場会館（鴨下会長）

◆9月7日（月）

県議会議員への請願・私学振興課長へ「保護者の願い」提出

※於県新庁舎（鴨下会長、深谷副会長）

※この他にも新型コロナウイルスの関係で開催中止になった会合が複数あります。

## これからの行事予定

◆11月4日（水）

私学振興全国大会

※於東京・メルパルクホール

◆11月24日（火）

神奈川県私立中学校・高等学校振興大会

※於パシフィコ横浜会議センター（開催中止）

◆11月27日（金）

青少年育成研修会 ※於神奈川・崎陽軒本店

神奈川県私立中学高等学校案内 ホームページ

<http://www.phsk.or.jp>

●内容 学校情報・入試情報・学費補助

■発行者 『神奈川県私学保護者会連合会』 〒221-0833 横浜市神奈川区高島台7番地5 神奈川県私学会館内 ☎045(321)1901  
■印刷所 『有限会社 イソノ』 〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-10-4 ☎045(753)2549